

## ハイロー型コンクリートミキサ車が「重要科学技術史資料(未来技術遺産)」に登録



【KYB熊谷工場内に展示されているハイロー型コンクリートミキサ車】

KYBのハイロー型コンクリートミキサ車が、日本の科学技術の発展を示す貴重な資料として2011年度「重要科学技術史資料」(愛称:未来技術遺産)として登録されました。

これは国立科学博物館が「科学技術の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術史資料」及び「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術史資料」として認定し登録する制度です。



【登録証(第00086号)と記念の楯】

### ■ハイロー型コンクリートミキサ車

ハイロー型コンクリートミキサ車は、1955年～1971年の間に製造・販売され合計2512台生産されました。当時高度成長期に入り、建設ラッシュの中、高品質のコンクリートが求められていました。練り混ぜ性能が高く均質な生コンクリートが得られる強制攪拌方式のハイロー型のミキサ車をKYBは時代のニーズに応え世に送り出していました。

ハイローの名称は、売り文句であった High Quality, Low Cost の Hi と Lo の文字を組み合わせ商標名としたものです。

東京オリンピック(1964年)を境にハイロー型ミキサ車の全盛期は終わり、現在と同じ傾胴型ミキサ車に移り変

わっていきますが、まさに日本の高度成長期を支えた特装車両の一つと言えます。

主な仕様	ドラム容量	4.5m <sup>3</sup>
	ミキシング容量	2.5m <sup>3</sup>
	最大混合容量	3.0m <sup>3</sup>
	ミキシング回転数	6～12 rpm
	アジテータ回転数	1～5.3 rpm
	架装重量	2700kg

以上